

# 彙 報（陵墓課関係分 平成 22 年度）

## 〔委員会〕

陵墓管理委員会

### (1) 委嘱委員

三輪嘉六（独立行政法人国立文化財機構九州国立博物館長）

白石太一郎（大阪府立近つ飛鳥博物館長）

田辺征夫（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所長）

河上邦彦（神戸山手大学人文学部教授）

石上英一（大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事）

和田晴吾（立命館大学文学部教授）

佐藤 信（東京大学大学院人文社会系研究科教授）

寺田秀樹（国土交通省国土技術政策総合研究所危機管理技術研究センター長）（～9月）

山下 勝（国土交通省国土技術政策総合研究所危機管理技術研究センター長）（9月～）

### (2) 会議

開催日：平成 22 年 6 月 23 日

場所：書陵部庁舎南会議室

### (3) 現地視察・工法検討会議

開催日：平成 22 年 11 月 10・11 日

視察場所：五十瓊敷入彦命 宇度墓（大阪府泉南郡岬町）

彦五瀬命 窪山墓（和歌山県和歌山市）

長屋王墓（奈良県生駒郡平群町）

吉備内親王墓（同 上）

三吉陵墓参考地（奈良県北葛城郡広陵町）

工法検討会議場所：広陵町役場会議室

## 〔展示会〕

特別展『皇室の文庫 書陵部の名品展』（於：三の丸尚蔵館 平成 22 年 9 月 18 日～10 月 17 日）

当部と三の丸尚蔵館とが共同開催した同展に対し、仁徳天皇百舌鳥耳原中陵出土馬形埴輪など百舌鳥古墳群出土品を中心とした当課保管の考古品 11 件を出陳した。

## 〔陵墓課関係〕

### 1 陵墓保存工事等に伴う調査

事前調査 三吉陵墓参考地整備工事予定区域に伴う事前調査以下 3 件

立会調査 桃山陵墓地御休所整備工事に伴う調査以下 19 件

各調査の概要については前掲の「平成 22 年度 陵墓関係調査報告」を参照いただきたい。なお、東百舌鳥陵墓参考地予備調査の成果については本調査実施後にあわせて、豊島岡墓地内埋蔵文化財調査については 2 ヶ年計画の全体が終了してからの報告を予定している。

### 2 現況図作成

三吉陵墓参考地

同参考地整備工事予定区域の事前調査とあわせ、同参考地の全域について縮尺 1/200、等高線間隔 25 cm の現況図を作成した。この測量図には、設定したトレンチや検出した埴輪列などの遺構についても記入

している。その成果については本誌掲載の三吉陵墓参考地整備工事予定区域の事前調査の報告を参照いただきたい。

### 3 陵墓地形図作成

後二條天皇 北白河陵（京都府京都市）縮尺 1/250 整理番号：M 65-2

磐坂市辺押磐皇子墓（滋賀県東近江市）縮尺 1/250 整理番号：M 69-1

下坂本陵墓参考地（滋賀県大津市）縮尺 1/1,000 整理番号：L 37-1

上記、3件3箇所について、陵墓地形図の修正図を作成した。

### 4 出土品の調査・整理

#### (1) 新収出土品

1に挙げた調査等で、三吉陵墓参考地を中心に、4,360点が出土した。

#### (2) 金属製品の保存処理

宮穴横穴群（熊本県熊本市）出土

金環（陵 59・60・61 C 1-1-1・C 2-1-1）78点

空玉（陵 63 C 2-1-2）7点

上記金属製品計85点について保存処理を実施した。

今回保存処理の対象とした宮穴横穴群出土品は、戦前の旧諸陵寮時代に所蔵品となり、書陵部に引き継がれた資料である。

#### (3) 土製品の保存修復

百舌鳥陵墓参考地（大阪府堺市）出土

円筒埴輪 第7トレンチ No.1（本誌第61号掲載報文第13図6）

第13トレンチ No.2（同 第12図1）

同 No.3（同 第19図45）

同 No.4（同 第15図19）

土師器 低脚杯 第5トレンチA（同 第30図114）

同 同 A（同 第30図115）

椀 第5トレンチB（同 第30図118）

同 同 A（同 第30図119）

上記円筒埴輪、土製品について、保存修復を実施した。

今回保存修復の対象となった土製品は、いずれも平成20年度に実施した同参考地墳塁裾護岸その他整備工事に伴う事前調査での出土品である（本誌第61号参照）。

### 5 墳丘調査

皇后播磨稻日大郎姫命 日岡陵

兵庫県加古川市に所在する同陵の墳丘を中心とした範囲について、スケール1/100、等高線間隔25cmで平面図を作成した。その成果については本誌掲載の報告を参照いただきたい。

### 6 堂塔式陵墓の写真測量図作成

桃園天皇女御尊称皇太后富子髪塔（円丘・宝篋印塔）

仁孝天皇皇子安仁親王髪塔（円丘・宝篋印塔）

四十七方供養塔（円丘・宝篋印塔）

いずれも和歌山県伊都郡高野町金剛峯寺奥の院の天皇族髪歯爪塔地内に所在する上記の石塔3基について、スケール1/4、等高線間隔を石塔で1cm、円丘で10cmとして平面、立面2方向（正面、向かって左側面）の計3面の写真測量図を作成した。

### 7 陵墓内所在石造物の保存処理

聖德太子 磐長墓内「中段結界石」226基

大阪府南河内郡太子町叡福寺内の聖徳太子 磐長墓に所在する「中段結界石」452基については平成11～13・15年度に保存処理を行ったところであるが、実施より5年以上が経過したため、半数の226基について、経過観察を行い、清掃・消毒、再撥水処理等のメンテナンスを行った。引き続き管理には万全を期していきたい。

## 8 陵墓出土品関係資料調査

宇治市歴史資料館（京都府宇治市）

奈良県立橿原考古学研究所（奈良県橿原市）

天理市埋蔵文化財センター（奈良県天理市）

上記の各機関において陵墓出土品関係資料の調査を実施した。各調査の概要については前掲の「平成22年度 陵墓関係調査報告」を参照いただきたい。

## 9 陵籍・墓籍の編修

菊磨王妃常子

博義王

博恭王妃経子

恒久王妃昌子内親王

永久王

邦憲王妃好子

載仁親王

博恭王

載仁親王妃智恵子

朝融王妃知子

第93代後伏見天皇墓籍第7冊のうち、上記10方について墓籍の編修を行った。

## 10 資料提供

### (1) 出土品

外部展示施設への出陳は、継続として3件、新規として8件の申請があった。出陳先等のデータは表1のとおりである。

出陳のほかに、熟覧・実測・採拓・撮影に関して10件、写真の掲載・画像の放映に関して57件、分析に関して2件の利用があった。

### (2) 陵墓の現況写真ほか

掲載や展示に関して12件の利用があった。

### (3) 地形図・石塔図・遺構遺物実測図・絵図ほか

掲載に関して12件、領布に関して2件の利用があった。

### (4) 歴史的資料

閲覧に関して11件、領布に関して7件の利用があった。

## 11 出版

『書陵部紀要所収 陵墓関連論文集VI』 500部

『書陵部紀要所収 陵墓関連論文集VII』 500部

株式会社学生社より上記書籍の出版の申し出があり、編集作業に協力した。

## 12 外部協力

外部機関からの要請により、原稿執筆1件、職員派遣6件（講演2件、分析・調査等立会4件）について協力した。また、5箇所の陵墓地において、のべ6件の立入を実施した。

平成22年度貸付実績一覧

期 間	貸 付 先	展 覧 会 名 称	貸 付 資 料
通 年 ※のみ 平成22年 4月1日 ～ 6月30日 10月1日 ～ 平成23年 3月31日	東京国立博物館	平常陳列	千葉県祇園大塚山古墳：四仏四獸鏡 1点※ 石川県穴水町：御物石器 1点 奈良県大陵墓参考地：三角縁神獸鏡 5点，素文縁直弧文鏡 1点，鼈龍鏡 1点，鍔形石製品 1点，台座形石製品 1点 奈良県宇和奈辺陵墓参考地旧陪冢ろ号：大鉄鋌 5点，小鉄鋌 12点 奈良県柳本大塚古墳：內行花文鏡 1点 伝奈良県巣山古墳：鍔形石 2点 大阪府藤井寺陵墓参考地：銅製弓筈 1点
通 年	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館	平常陳列	奈良県宇和奈辺陵墓参考地旧陪冢ろ号：大鉄鋌 3点，小鉄鋌 4点
通 年	鳥取市因幡万葉歴史館	展示なし（研究資料として貸出）	鳥取県宇倍野陵墓参考地：石塔部材 6点
平成22年 6月29日 ～ 9月15日	九州国立博物館	開館5周年記念特別展 「馬 アジアを駆けた二千年」	福岡県御所山古墳：鉄地金銅張辻金具残欠 1点
平成22年 7月1日 ～ 9月30日	国立歴史民俗博物館	平成22年度人間文化研究機構連携展示 「アジアの境界を越えて」	千葉県祇園大塚山古墳：四仏四獸鏡 1点
平成22年 9月22日 ～ 12月13日	大阪府立近つ飛鳥博物館	平成22年度秋季特別展 「鉄とヤマト王権 一邪馬台国から百舌鳥、古市古墳群の時代へー」	奈良県宇和奈辺陵墓参考地旧陪冢ろ号：遺物出土状況復元 1式202点，大鉄鋌 5点，小鉄鋌 4点，鉄斧 2点，鉄鋤先 2点，鉄鎌 2点，刀子 2点，鉈 2点，石製斧 1点，石製鎌 3点，石製鎌残欠 3点 大阪府応神天皇陵陪冢ほ号：滑石勾玉33点，韁形埴輪 1点 大阪府藤井寺陵墓参考地：半三角縁二神四獸鏡 1点，変形龍虎鏡 1点，巴形銅器 4点，石製鎌残欠 1点，石製劍残欠 1点，石製刀子 1点，石製刀子残欠 1点，車輪石残欠 2点，銅製矢筈 4点，滑石勾玉28点，滑石管玉29点，滑石小玉42点，鉄劍 7点，鉄刀 5点
平成22年 9月30日 ～ 12月15日	大阪府立弥生文化博物館	大阪府立弥生文化博物館， 九州国立博物館連携企画 大阪府立弥生文化博物館平成22年度秋季特別展，九州 国立博物館トピック展示 「邪馬台国 一九州と近畿一」	奈良県大市墓：特殊器台 8点，特殊器台形埴輪 6点， 二重口縁壺形埴輪 2点
平成22年 10月22日 ～ 平成23年 1月28日	堺市博物館	百舌鳥，古市古墳群世界遺産暫定一覧表掲載記念 平成22年度特別企画展 「百舌鳥古墳群 ーその出土品からさぐるー」	大阪府仁徳天皇陵：須恵器甕 1点，人物埴輪 1点，水鳥形埴輪 1点，円筒埴輪 7点 大阪府履中天皇陵：家形埴輪 4点，蓋形埴輪 2点，韁形埴輪 2点 大阪府百舌鳥陵墓参考地：家形埴輪 2点，圓形埴輪 1点，蓋形埴輪 1点，円筒埴輪 1点，土師器低脚杯 2点，土師器碗 2点，笊形土器 5点 大阪府塙廻古墳：勾玉 7点，棗玉 6点，碧玉管玉49点，ガラス丸玉78点，ガラス小玉1531点，滑石臼玉684点

平成22年 12月16日 ～ 平成23年 3月8日	九州国立博物館	大阪府立弥生文化博物館、 九州国立博物館連携企画 大阪府立弥生文化博物館平 成22年度秋季特別展、九州 国立博物館トピック展示 「邪馬台国 一九州と近畿 一」	奈良県大市墓：特殊器台8点、特殊器台形埴輪6点、 二重口縁壺形埴輪2点
平成23年 1月24日 ～ 3月28日	奈良県立橿原考古学研究所 附属博物館	平成22度特別陳列 「埴輪のはじまり 一大和 の特殊器台とその背景ー」	奈良県大市墓：特殊器台2点、特殊器台形埴輪30点、 特殊壺16点、二重口縁壺形埴輪11点、壺1点、須恵器 鏡1点 奈良県衾田陵：特殊器台14点、特殊器台形埴輪27点、 特殊壺10点 奈良県崇神天皇陵：楕円筒埴輪9点、形象埴輪3点、 小型丸底壺1点、須恵器鏡1点 奈良県景行天皇陵：蓋形埴輪2点、盾形埴輪5点、朝 顔形埴輪5点、鰐付円筒埴輪3点、円筒埴輪14点、須 恵器鏡1点 奈良県成務天皇陵：柵形埴輪2点
平成23年 2月14日 ～ 5月19日	島根県立古代出雲歴史博物 館	平成22度企画展 「古代出雲の壮大なる交流 —神々の国を往来した人と 文物—」	奈良県狭木之寺間陵：変形方格規矩四神鏡石膏模造レ プリカ1点、直弧文帶縁内行花文鏡石膏模造レプリカ 1点、石鉋石膏模造レプリカ1点、車輪石石膏模造レ プリカ1点、車輪石残欠石膏模造レプリカ1点、鍬形 石石膏模造レプリカ2点、鍬形石残欠石膏模造レプリ カ1点、石製刀子石膏模造レプリカ1点、石製刀子残 欠石膏模造レプリカ2点、石製鎌残欠石膏模造レブリ カ1点、石製斧石膏模造レプリカ1点、石製高杯石膏 模造レプリカ2点、石製合子蓋残欠石膏模造レプリカ 1点、石製白石膏模造レプリカ1点、帆立貝形石製品石 膏模造レプリカ1点、琴柱形石製品石膏模造レプリカ 1点、琴柱形石製品残欠石膏模造レプリカ1点、石製品残 欠石膏模造レプリカ1点、家形埴輪4点、蓋形埴輪11点、盾 形埴輪14点、形象埴輪4点、朝顔形埴輪4点、円筒埴輪 16点

## 聖武天皇と後嵯峨天皇の崩御日について

当庁では、明治5年の改暦以前に崩御・薨去された天皇・皇族各御方の崩御日・薨去日については、和暦のもの、現行の太陽暦（グレゴリウス暦）に換算したもの<sup>(1)</sup>、そこからさらに皇紀に換算したものなどを使用している。こうした換算作業がいつごろ行われたものであるかについては記録が残されていないために詳細は不明であるが、職員の執務参考用として作成されている『陵墓要覧』の初版である大正4年版には和暦とともに皇紀に換算された崩御日・薨去日が記載されているので<sup>(2)</sup>、それまでには行われていたものと思われる。

先般、歴代天皇の崩御日の再換算を行ったところ、聖武天皇と後嵯峨天皇の御二方について、下記の通り従来用いていた換算日が誤っていたことが判明した。いずれも前後1日ずつのずれがあるので、「大月」「小月」の排列を誤った情報に基づいて換算した可能性が考えられる。

今後は新たに換算し直した崩御日を使用していくことになるため、ここに備忘録としてその経緯を記しておくものである。

（福尾）

御方名	崩御日（和暦）	グレゴリウス暦換算日	
		（旧）	（新）
聖武天皇	天平勝宝8年5月2日	756年6月7日	756年6月8日 <sup>(3)</sup>
後嵯峨天皇	文永9年2月17日	1272年3月25日	1272年3月24日 <sup>(4)</sup>

### 註

（1）あくまでも現行の暦の上で何年何月何日にあたるかを知ることに主眼を置いているため、西洋で1582年まで用いられていたユリウス暦への換算日は採用していない。

（2）諸陵寮『陵墓要覧』大正四年十月調、1915年。

（3）内田正男の『日本暦日原典』によれば、

天平勝宝8年5月1日=ユリウス暦756年6月3日

であるので、したがって

天平勝宝8年5月2日=ユリウス暦756年6月4日

となる。ユリウス暦756年ではグレゴリウス暦の暦日はユリウス暦の暦日に4日加えれば算出できることから、

天平勝宝8年5月2日=グレゴリウス暦756年6月8日

となる。

内田正男編著『日本暦日原典』、雄山閣出版、1975年。

（4）同じく『日本暦日原典』によれば

文永9年2月1日=ユリウス暦1272年3月1日

であるので、したがって

文永9年2月17日=ユリウス暦1272年3月17日

となる。ユリウス暦1272年ではグレゴリウス暦の暦日はユリウス暦の暦日に7日加えれば算出できることから、

文永9年2月17日=グレゴリウス暦1272年3月24日

となる。

内田『日本暦日原典』、前掲註（3）。